



元気印  
**土庄町**



心をひとつに ～四海幼稚園の運動会～

9月定例会のあらまし	2-3
平成26年度決算まとまる	4
付託議案の審議	5
委員会の活動報告	6-7
一般質問（8人の議員が町政を問う）	8-13
まちの元気印（小豆島クリエイティブ）	14



# 研究実証事業を実施

9月  
定例会

## 豊島小中学校建設事業

屋外トイレの全面改修工事の追加、教育備品購入費など

1553  
万円

## 幼稚園耐震化事業

土庄、洲崎、四海幼稚園の耐震診断委託料

796  
万円

## 有害鳥獣被害防止対策事業

鳥獣被害対策実施隊員への報酬など

634  
万円

## 旧北浦小学校校舎改修事業

旧北浦小学校を北浦公民館として利用するための実施設計

573  
万円

### 補正予算の主な内容

9月定例会は9月16日に開会し、9月18日に閉会しました。補正予算9件、条例改正4件、財産の取得1件、契約2件、人事案件1件、その他1件、平成26年度各会計決算認定が提出され、議案は各常任委員会審議を経て、全議案を可決・同意しました。決算認定については、決算特別委員会を設置し、付託しました。また、議員発議による規則1件、意見書1件を可決しました。一般質問では、8人の議員が町政について質問を行いました。

### 条例の一部改正

#### ◆個人情報保護条例

個人番号（マイナンバー）を含む特定個人情報（バー）を含む特定個人情報の適正な取り扱いを確保し、特定個人情報の開示、訂正、利用の停止、消去及び提供の停止を実施するための改正。

#### ◆手数料徴収条例

個人番号通知カード、個人番号カードの再交付手数料を定める。

◆特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例  
鳥獣被害対策実施隊員の報酬を規定する。

◆美しいまちづくり条例  
空家等対策の推進に関する特別措置法の施行に伴う改正。

### 財産の取得

◆消防団車載型無線装置及び携帯型無線装置の購入

〈設置場所〉

土庄町各分団

〈取得価格〉

2786万4千円

〈契約の相手方〉

三信電気(株)高松支店

### 契約

◆豊島簡易水道事業統合工事

〈契約方法〉

総合評価方式による制限付き一般競争入札

〈請負代金〉

3億8556万円

〈工事請負人〉

(株)フソウ 四国支社

◆平成27年度豊島小中学校建設工事の変更

〈変更内容〉

屋外トイレの全面改修等

〈変更金額〉

1240万560円

〈変更後の請負代金〉

1億290万4560円

〈工事請負人〉

(株)中村組

### 人事案件

◆固定資産評価審査委員会委員の選任

前委員の任期満了に伴い、委員として選任することに同意。

森 公士氏（新任）  
（69歳・洲崎）

### 議員発議

◆議会傍聴規則の一部改正

提出者 井上正清議員  
賛成者 山崎勝義議員  
佐々木邦久議員

議会の傍聴席への持ち込みを禁止するもののうち、つえを削除する。

◆特別支援学校設立に関する意見書

提出者 佐々木邦久議員  
賛成者 山崎勝義議員  
井上正清議員

島外の養護学校等への通学は障害児本人・家族にとって大きな負担であるため、島内に特別支援学校の設立を求める意見書を提出する。

← 香川県知事、香川県教育委員会教育長、香川県議会議長に提出

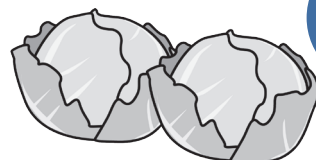
# 新たな産業育成による雇用の創出に向けて 健康野菜の栽培システム

平成27年度補正予算

会 計 名		補 正 額	補 正 後	議決結果 (賛成：反対)
一 般 会 計		5090万8千円	81億2176万8千円	可決(7：3)
特 別 会 計	簡 易 水 道	698万1千円	2億1409万6千円	可決(10：0)
	国民健康保険	10万5千円	23億6507万6千円	可決(10：0)
	港 湾 整 備	22万2千円	9318万4千円	可決(10：0)
	大鐸財産区	23万4千円	965万円	可決(10：0)
	農業集落排水	75万8千円	2421万4千円	可決(10：0)
	介 護 保 険	5500万9千円	18億5903万6千円	可決(10：0)
	後期高齢者医療	196万5千円	2億3248万1千円	可決(9：1)
水 道 事 業		営業外収益207万4千円、営業費用258万円、建設改良費2800万円を計上。		可決(10：0)

## 次世代産業育成モデル事業

植物栽培システム研究実証事業委託料など



1億  
1028  
万円

## 自治振興助成事業

土庄港、大部港に防犯カメラ設置など



208  
万円

補正予算に対する討論

◇ 一般会計

反対 福本議員

防犯カメラ設置、マイナンバー制度導入、同和事業の継続、次世代産業育成モデル事業にかかる予算に反対する。

防犯カメラの設置は問題のすり替え。町長が個

反対 川本議員

人情情報を庁外へ持ち出したことが問題。次世代産業育成モデル事業は、住民への説明がなく、企業誘致の具体的なビジョンがないため、もっと慎重な審議を行うべきである。

次世代産業育成モデル事業への投資は、リスク

が高く、企業誘致ができる根拠もない。企業誘致が成功しても費用対効果は低い。

町の財政状況を考えれば、この事業の予算執行は適切ではないため反対する。

賛成 井上議員

マイナンバー制度は、国の施策であり、利用範囲が広く、本人確認に便利な制度である。

次世代産業育成モデル事業は、国の地方創生の新型交付金を活用し、県や研究機関との連携により雇用の創出が見込まれる。

◇ 後期高齢者医療事業特別会計

反対 福本議員

高齢者の負担を際限なく増やし、受けられる医療を制限する制度の廃止を求める立場から反対する。

条例案に対する討論

◇ 個人情報保護条例の一部改正

◇ 手数料徴収条例の一部改正

反対 福本議員

マイナンバー制度実施に伴う条例改定に反対する。

賛成 井上議員

マイナンバー制度は必要と考えているので賛成する。

## 平成26年度決算

一般会計、各特別会計、公営企業会計の平成26年度決算がまとまり、監査委員の意見を添えて提出された。

決算認定については、決算特別委員会が閉会中に継続審査することになった。

### 監査委員の指摘事項

### 公平かつ適正な債権管理による収納促進を

#### 〔一般会計・特別会計〕

事業の適正規模・緊急性・重要性を考慮し、限られた予算を効率的・効果的に執行し、次世代に加重な負担とならないよう健全な財政運営を望む。負担の公平性と財源確保の観点から、町税、保険料、各種使用料等の収入未済金の解消と新たな滞納の発生防止に努められたい。

農業集落排水事業は、一般会計からの慢性的な繰り入れを抑えられるよう、事業存続を含めその方向性について十分な検討を強く望む。

#### 〈決算特別委員会〉

委員長	濱野良一
副委員長	岡野能之
委員	岡本経治
	高橋正博
	母倉正人
	福本耕太
	濱中幸三

#### 〔水道事業会計〕

肥土山浄水場更新工事は香川県広域水道事業体設立準備協議会と協議し、慎重に事業を進めることが必要。収入未済金の回収強化、コスト削減を含め、経営基盤強化に尽力されたい。

#### 〔病院事業会計〕

医師の減少などに伴う患者数の減少により、収益が改善する兆しがみられない。平成28年春の小豆島中央病院開院に向けての対応を含め、職員一丸となり、経営改善に取り組まれたい。

## 平成26年度会計別決算額

(単位：千円)

会 計 名		歳 入	歳 出	翌年度繰越	実 質 収 支
一 般 会 計		8,790,031	8,377,843	78,059	334,129
特 別 会 計	簡 易 水 道	61,503	53,132	0	8,371
	国民健康保険	2,199,840	2,083,705	0	116,135
	港 湾 整 備	30,486	103,385	0	△72,899
	宅 地 造 成	90,061	168,751	0	△78,690
	大鐸財産区	11,982	10,485	0	1,497
	農業集落排水	22,984	22,984	0	0
	介 護 保 険	1,721,049	1,666,302	0	54,747
	福祉サービス	106,860	106,860	0	0
	後期高齢者医療	225,337	225,263	0	74
企 業 会 計		収 益	費 用	純 損 益	
水 道	収益的収支	422,155	337,281	84,874	
病 院	収益的収支	1,797,302	1,770,637	26,665	

## 報 告

### 平成26年度決算健全化判断比率・資金不足比率

自治体財政健全化法に基づく自治体財政の健全度を表す指標が、早期健全化基準以上となれば、財政健全化計画を策定しなればならないが、いずれも基準を下回っている。4つの特別会計、公営企業の資金不足比率は、経営健全化基準の20%を下回っているが、宅地造成事業特別会計で3.2%となっており、今後とも経営改善に努めることが望まれる。

健全化判断比率	H26年度	H25年度	H24年度	早期健全化基準
① 実 質 赤 字 比 率	—	—	—	15.00%
② 連結実質赤字比率	—	—	—	20.00%
③ 実質公債費比率	8.0	9.0	10.0	25.0%
④ 将 来 負 担 比 率	14.8	25.2	42.8	350.0%

※赤字額がないものは一で表示

- ①実 質 赤 字 比 率…一般会計に占める赤字の割合
- ②連結実質赤字比率…公営企業などを含む全会計に占める赤字の割合
- ③実質公債費比率…自治体収入に対する借金返済額の割合
- ④将 来 負 担 比 率…将来にわたる実質的負債の割合



総務建設常任委員会  
での主な質疑

次世代産業育成モデル事業

《川本》企業誘致はどうするの。

《答》町、県が一緒になって誘致しなければならぬ。誘致ができないことは想定していない。

《川本》研究所等との契約は。

《答》財政面を考慮し、単年度契約をベースに協議していきたい。

《濱中》来年度以降の事業内容や事業費用、財源は。

《答》今年度整備予定である機器を使った研究・実証実験を継続していくと思われる。

実証事業であるため、生産した野菜を販売する事業者の誘致が課題となる。

研究所等の研究は、少なくとも5年間はかかると思われる。  
事業費は年間8000

万円程度を想定している。事業費の2分の1は国費、残りは県と協議し、できるだけ町費負担を抑えたい。

《山崎》来年度以降の事業の形が見えてこない。事業として進めるのは不安がある。

《川本》県と連携した企業誘致の成功は難しいのではない。リスクが大きい事業である。来年度以降の町費負担が少ないのであれば良いが、非常に厳しいと思う。

《岡本》他の植物工場の事例や事業内容等を十分調べた上で、町民に説明できるようにしてほしい。

豊島簡易水道事業統合工事

《高橋・山崎》工事請負契約の入札者数と工事の工期は。

《答》入札者数は2社、工期は平成29年3月10日までである。

教育民生常任委員会  
での主な質疑

マイナンバー制度開始

《濱中》住基カードは廃止になるのか。

《答》住基カードは個人番号カードの導入に伴い有効期限内のみの使用となり、来年1月からは新規交付、再発行を行わない。

豊島小中学校屋外トイレの改修

《濱中》体育館横屋外トイレは、障害者用トイレになっていないのか。

《答》車いすが回転できるだけの広いスペースは取れないが、手すりを付けるなど、今後、学校と相談しながら考えていきたい。

野外活動センターの管理

《濱中》野外活動センターの遊具点検委託料を計上しているが、点検結果を今後の管理継続の判断材料にするのか。

《答》設置している遊具の利用時に事故が発生しないよう、事前に保守点検を行うおうとするものである。



改修前のトイレ

9月定例会の審議結果

区分	議案の内容	議決結果 (賛成：反対)	区分	議案の内容	議決結果 (賛成：反対)
条例の一部改正	土庄町個人情報保護条例	可決(9：1)	財産の取得 契約 議員発議	消防団車載型無線装置及び携帯型無線装置の購入について	可決(10：0)
	土庄町特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例	可決(10：0)		工事請負契約の締結について	可決(10：0)
	土庄町美しいまちづくり条例	可決(10：0)		工事請負契約の変更について	可決(10：0)
	土庄町手数料徴収条例	可決(9：1)		土庄町議会傍聴規則の一部を改正する規則	可決(10：0)
その他	土庄町辺地に係る総合整備計画の変更について	可決(10：0)		特別支援学校設立に関する意見書	可決(10：0)
人事案件	土庄町固定資産評価審査委員会委員の選任について	同意(10：0)			

※採決は議長を除いて行います。欠席議員は1名です。



総務建設常任委員会  
(7/3、8/28)

## 税 務 課

### 入湯税に関する調査報告

昨年6月に全特別徴収義務者に対し、平成26年4月申告分の調査を実施し、昨年9月から今年6月にかけて、一部特別徴収義務者の調査を行った。法に基づき厳正な対処を行うとともに、今後も定期的な調査を行い、すべての町税に対し適正な申告、賦課、徴収を進める。

《濱中》全ての特別徴収義務者の調査はいつ終わるのか。

《答》3年以内には、終了したい。

《川本》調査の結果、特段の措置を講じたというのであれば、申告に不備があったということか。

《答》申告に不備があったかどうかは、答えられない。一般論として過不足があった場合、入湯税については更正するしかない。

《川本》例えば、更正して納付期限内に納付がない場合の処分は。

《答》他の町税と同様に取り扱う。

## 出 納 室

### 債権管理の状況

平成26年度実績  
町税 約5136万円  
水道料約1775万円  
その他私債権約8万円

《山崎》昨年度より徴収額が減っている理由は。

《答》債権管理室の職員が減ったことと昨年度は大型の差し押えがあったため。

《川本》情報管理に関する不祥事の再発防止策は。防犯カメラの設置が必要では。

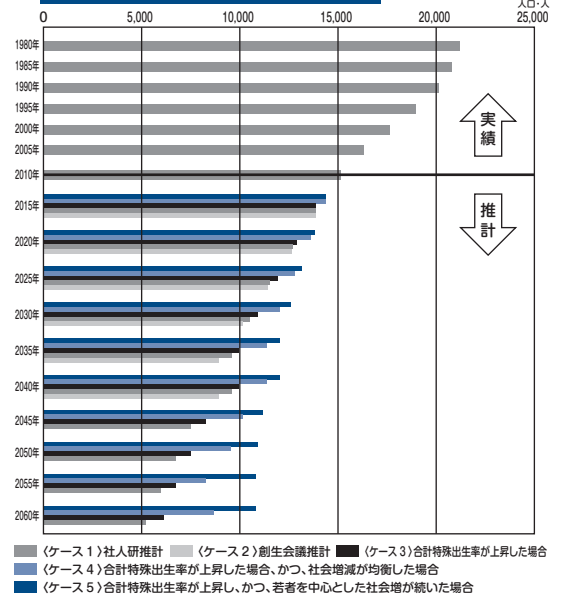
《答》債権管理室入口、ロッカー、机等の施錠を徹底している。防犯カメラの設置は検討したい。

## 企 画 課

### 地方版総合戦略

全課から提案を集め職員プロジェクトチームで

人口の推移と長期的な見通し



総合戦略の骨子を作成し、11人の委員による有識者戦略会議を開催した。

「土庄町創生人口ビジョンの骨子」は、人口の現状を分析し、各種施策により、平成72年の人口を推計人口の2倍の1万人程度とすることを旨とする。

「土庄町創生総合戦略の骨子」は、平成31年度までの5か年計画として4つの基本目標を設定している。①観光振興や交流の促進と移住・定住の促進により人の流れを創る。

②安定した雇用と新たな活力創出により魅力ある産業を創る。③結婚から

子育てまで切れ目ない支援とワークライフバランスの推進により子育てを楽しめる環境を創る。④安心・安全・安定のまちづくり、既存ストックの有効活用、連携中枢都市圏による広域連携推進により時代にあった住みやすいまちを創る。

今後、有識者会議等を通じ、より良いものにしていく。

《高橋》すぐに取り組める具体的な案はあるか。

《答》年間180〜200件の相談がある移住交流事業を拡充していく。

## 次世代産業育成モデル事業

香川県から植物栽培システム研究実証事業を共同で行う提案があった。地域の新たな拠点づくり、産業育成・振興による雇用の創出、公共施設跡地の有効活用の中から事業を実施する。期間は平成27年度から5年間を想定している。

## 《岡本》植物栽培システムで何を作るのか。

《答》工場で作るのに適した葉物野菜のうち、カリウムの含有量を調整でき腎臓疾患の患者に提供できるレタスを作る予定。

《山崎》全国の企業が取り組んでいることを今さら研究するのか。

《答》課題となるコスト面で工場のエネルギー効率や次世代型の栽培システムを研究する。

## 《川本》研究する場所は。

《答》未定だが、病院跡地や小学校跡地などうち、400㎡くらいで実証実験する。

《川本》事業の運営会社の用途はあるのか。

《答》運営会社の募集は、県と協議して企業誘致を行う。

## 総 務 課

### 個人情報保護条例の一部改正

行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律の施行により10月から12桁の個人番号（マイナンバー）が付されることに伴い条例を改正する。

《濱中》認知症が疑われる方から請求があった場合の対応は。

《答》本人の請求意志や代理人の確認をしっかりとやりたい。



個人番号通知カード



## 税情報漏えい調査委員会の調査状況

警察の捜査状況は教えてもらえないが、調査委員会を開催し、今後の方向を含めて検討する。

《川本》調査委員会の意見もふまえ、対策として防犯カメラの設置を提案したがどうなっているのか。

《答》防犯カメラの設置は検討したい。

## 農 林 水 産 課

### 肥土山銚子砂防ダム取水施設改良工事

砂防ダム本体に設置された取水管の取水口が土砂で詰まり取水量が低下しているので、改良工事を行う。

《岡本》ジェット水流等で詰まった土砂を取り除けないか。

《答》いろいろ試してみましたが、回復せず、抜本的な改良が必要である。

## 有害鳥獣捕獲後の確認と処分

有害鳥獣の捕獲数が急増しているため、農林水産課職員が行っていた捕獲後の個体確認と処分の業務を「鳥獣被害対策実施隊員」が行う。活動報酬は出勤1回につき5千円。



肥土山銚子砂防ダム

## 商 工 観 光 課

### エンジェルロード内の入島禁止看板

町は感謝の意を示すとともに、円満な解決に向け努力している。

《濱中》現在の賃貸借契約の金額は。

《答》山林で算定するため、年間数千円である。

## 教育民生常任委員会 (8/27)

## 住 民 環 境 課

### 一般廃棄物処理施設整備状況

灘山の施設建設予定地の法面は正をする予定の採石事業者が、ただちに事業を再開することは難しく、町が希望する期限までに法面は正はできないとのことである。

灘山での期限内の建設が困難な状況となれば、暫定的に他の建設予定地を至急検討しなければならぬため、小江を候補地の一つとして考えている。

《委員会の意見》灘山では間に合わないというところをもっと詰めるべきであり、その上で期限が迫っているため、他の候補地を検討する必要がある。

## 企 画 課

### 病院の跡地利用

土庄中央病院跡地利用プロジェクトチームは、診療所に加え、機能訓練（リハビリ）特化型デイサービス施設を増築棟に整備することを基本方針とした。

《母倉》介護老人保健施設として利用する考えは。

《答》医師の配置が必須となるので、現状では無理であろうと判断している。

《岡野》事業は町直営で行うのか。民間事業者が行うのか。

《答》まずは民間事業者を募りたい。

## 福 祉 課

### 小豆島中央病院の開院に向けて

《建設工事》病院本体は12月末、院内保育所は1月末完成予定である。

《職員》来年4月の開院時に、土庄中央病院・内海病院の職員の身分を小

豆島中央病院企業団に移す。

《診療所》主に内科の再診患者を対象に、午前中のみの診療となる。診療所の赤字は各町で負担する。

《小豆島の地域医療を守り育てる島民会議》自分たちの病院を自分たちで守り育てるため、講演会の開催などの取り組みがされている。

《母倉》職員が小豆島中央病院へ移る意思確認は。

《答》10月を目途に最終の意思確認をする。

《岡野》院内保育所の職員はどうするのか。

《答》業者に委託する。

《福本》当初の公約を守り、診療所には内科だけでなく、整形外科と小児科も置くよう努力すべき。

## 教 育 総 務 課

### 豊島小中学校建設事業の変更

屋外トイレの全面改修工事の追加と教育備品を購入する。

## 幼稚園の耐震化

土庄、洲崎、四海幼稚園の耐震診断を実施する。

## 生 涯 学 習 課

### 旧北浦小学校校舎改修事業

公民館の老朽化、小学校跡地利用のため、旧北浦小学校校舎を改修し、北浦公民館を移転する。

《濱野》1階だけ改修するのか。移転後の旧公民館はどうするのか。

《答》公民館としては1階を使用し、2階は災害時の避難場所にする要望がある。旧公民館の利用は地元と協議したい。



現在の北浦公民館



# 議員が町政を問う

質 問 議 員	質 問 事 項
母 倉 正 人	○土庄町での瀬戸内国際芸術祭2016の作品展開の現状・見通しは ○土庄町版地方創生総合戦略策定の現状と具体的な施策は
木 場 隆 司	○小豆島中央病院への交通アクセスは ○増える空き家への対策は ○人口減少抑制の方策は
高 橋 正 博	○公共工事を分離発注方式に ○リハビリ施設の開設は
岡 本 経 治	○空き家対策特別措置法施行に伴う町の取り組みは ○児童・生徒への防災教育は ○通学路の改善を
濱 野 良 一	○町立図書館から対岸への歩道橋建設の進捗は ○県道屋形崎小江洲崎線道路改良工事の推進を



母倉正人 議員

**土庄町での瀬戸内国際芸術祭2016の作品展開の現状・見通しは**

母倉 回を重ねるたびに作品数や展示内容が充実している芸術祭は、観光振興と町のイメージアップに貢献するとともに、地域活性化策としても非常に大きな効果を上げている。町内のこれまで作品展示がなかった地域で作品展開すれば、新たな魅力の創出や地域活性化のきっかけになる。瀬戸内国際芸術祭2016において、町内にどのような作品展開を考えているのか、現状と見通しは。

商工観光課長 町内では、土庄港、迷路のまち周辺、肥土山、豊島での作品展開を予定しており、豊島では新規作品が5つ予定されている。そ

の他、新たに町北部地域での作品展開の可能性も高まっているが、最終的には瀬戸内国際芸術祭実行委員会の判断により決定され10月中旬に発表される。

前回までの実績をみても、作品展開した地域の方々には献身的な協力をいただいております。地域の活力の原動力となっている。新たな地域で作品が展開される場合は、地域の方々のサポートをお願いしたい。



前回芸術祭でのわらアート製作

**土庄町版地方創生総合戦略策定の現状と具体的な施策は**

母倉 国は、人口急減、超高齢化という課題に取り組む、各地域が特徴を活かした自律的で持続的な社会をつくることを目標に、まち・ひと・しごと創生本部を設置し、財政措置を講じる一方で、各自治体にも地方版の総合戦略の策定を求めている。この総合戦略に沿って、土庄町がどのような施策を打ち出し、実行できるかは、町の将来に大きく影響する。土庄町版総合戦略の進捗状況と今後の予定、また、全体の考え方と具体的な取り組みは。

企画課長 今年5月に町職員のプロジェクトチームを設置し、全課から提出された事業提案を総合戦略の骨子案として整理し、人口ビジョンの骨子案と併せて8月に開催した有識者による土庄町まち・ひと・しごと創生総合戦略会議で協議した。

9月中旬に第2回総合戦略会議を開催し、10月末頃を目途に人口ビジョン及び総合戦略を取りまとめる。

人口減少への対応として、町の総合戦略は①人の流れを創る、②魅力ある産業を創る、③子育てを楽しめる環境を創る、④時代に合った住みやすいまちを創るの4つを基本目標としている。具体的には、観光振興や交通施策等により、流入人口の増加を図り、それらを移住・定住に結びつけ、転入者数の増加を図る。

その実現には、地域経済力の向上や雇用の確保が重要である。また、子どもを産み育てやすい環境の整備により、出生率の向上を図るとともに、子どもから高齢者まで幅広い世代が住みやすいまちづくりを行うことで、流入人口の定着につなげられるよう長期的視野で人口減少対策に取り組む。





質問議員	質問事項
福本 耕太	○住宅リフォーム助成制度の来年度実施は ○プレミアム商品券の販売は町民重視で ○「安保法案」アンケートに対する町長回答の根拠を問う
岡野 能之	○町による創業支援の取り組みを ○障害者グループホームの整備を
川本 貴也	○瀬戸内国際芸術祭2016の進捗状況は ○小豆島中央病院の開院に向けての取り組みは

9月定例会では、8人の議員が一般質問を行いました。  
全文記録（会議録）は、土庄町ホームページに掲載していますので、ご覧ください。

《土庄町ホームページ》<http://www.tonosho.kagawa.jp>



木場隆司 議員

企画課長 路線バスの再編等を関係者と協議している。運賃の低廉化を図り、利用者負担の軽減に努めたいと考えている。土庄中央病院跡地を乗り継ぎ拠点と位置付け、利便性の向上を図りたい。また、小豆島中央病院方

小豆島中央病院への交通アクセスは  
木場 平成28年4月に小豆島中央病院が開院するが、路線バスで町内から小豆島中央病院へ行く場合、ほとんどの路線で乗り継ぎが必要となる。小豆医療圏の中核病院として、利用者の通院が便利でなければならぬ。交通アクセスと路線バスの運行について、どのように考えているのか。



通院に便利なバスの運行を

面への直通路線等についても協議している。  
福祉課長 福祉バスの運行区域は町内であるため、小豆島中央病院への直接の乗り入れは予定していない。路線バス発着に合わせ、スムーズに乗り継ぎができるよう運行時間や経路の見直しをしていく。  
木場 直通バスの運行をぜひとも検討願いたい。

企画課長 今年度から実施した空き家バンク登録物件のリフォーム支援事業の成果もあり、登録件数・成約件数が増えている。今後も積極的にPRし、登録物件の増加に努める。

住民環境課長 法律で倒壊等著しく保安上危険となるおそれのある状態と認められた特定空き家に対して、除却や修繕などを助言または指導、勧告、命令が可能となった。空き家の除去について、町の補助要綱を作成し、来年度から補助事業を実施したいと考えている。

木場 廃屋化した空き家は近所にとって迷惑である。対策は考えているか。  
利用可能な空き家は空き家バンクに登録し、借主等を募っているが、助成事業等を積極的に取り入れ、流入人口を増やす施策を検討してはどうか。

企画課長 新たな産業育成による雇用の創出と町有施設の跡地利用を一体的に行うため、香川県等と連携し、次世代栽培システムの研究及び栽培を伴う実証事業を実施する予定である。  
商工観光課長 本年度、企業誘致条例の助成対象企業が現れた。今後も県、商工会等と連携し、地域産業の活性化を図り、企業への支援や企業誘致にも取り組み、雇用を創出したい。

人口減少抑制の方策は  
木場 町の人口は、戦後の2万9千人をピークに、現在は1万4千人弱と半減している。対策を講じなかった場合、2060年の人口は約5300人と推定されている。将来展望として、出生率の向上、また、若者を中心とする転入人口の増加を図るため、産業の育成による雇用の創出について、具体的方策を考えているか。



高橋正博 議員

## 公共工事を分離発注方式に

高橋 国、県は、公共工事における設備工事を、分離発注方式で実施しているが、町ではここ数年分離発注方式を採っていない。地元企業の振興と育成のため、分離発注にするべきでは。今後どのように取り組むのか。

に支障がないようにち密な工事計画のもと施工する必要があるという特別な事情があった。地元企業の振興、育成は町としても大切であると考えており、分離発注に努めていく。

## リハビリ施設の開設は

高橋 高齢化に伴い、町においても今後、医療、福祉、介護に対する期待がますます高まっていくと考えられ、元気な高齢者を1人でも増やすため、リハビリテーション分野が重要である。

土庄中央病院跡地利用案として、耐震化ができている2階部分にリハビリ施設を開設すると聞いているが、具体的な中身と町が考えているリハビリ施設の方向性は。

総務課長 公共工事の入札及び契約の適正化を図るため、建築工事の分離設計全額が1件300万円以上の場合、分離発注をすることとしている。過去5年間の分離発注は、4件である。分離発注ができていないものは、新小学校建設工事、豊島小中学校建設工事であるが、分離発注しても1億円以上となり地元業者の参加が難しい、授業

健康増進課長 介護保険法の改正により、既存の小規模通所介護事業所が、地域密着型サービスに移行することや、老健うちのみの規模縮小、小豆島中央病院では介護保険型リハビリは実施しな

い方針等により、土庄町の人が利用できる施設が限定され、利用が困難になると想定される。来年度からは総合事業として、比較的元気な高齢者が要介護状態となることを予防するため、既存の通所介護事業所による短期集中機能訓練事業等を計画しているが、病院跡地のリハビリ特化型デイサービス施設計画の進捗により、今後の対応を考えていく必要がある。

福祉課長 町内のリハビリサービスが充実していない現状をふまえ、土庄中央病院跡地にリハビリに特化した通所デイサービス所の新規開設を計画している。開設時期は土庄中央病院の閉院後、速やかに対応していく。

高橋 費用面や工期を考えると、土庄中央病院跡地に限らず、東洋紡績跡地や学校の校舎1階部分を利用する考えはないのか。また、施設の運営は町直営か、民間事業者で行うのか。



土庄中央病院跡地にリハビリ施設の開設は

企画課長 土庄中央病院の2階には、リハビリに必要な施設、設備が整っているため、土庄中央病院跡地活用を考えている。町長 運営は、民間事業者で考えている。土庄中央病院閉院後に、改修工事を実施するため、来年度に予算措置したい。



濱野良一 議員

## 町立図書館から対岸への歩道橋建設の進捗は

濱野 今年4月に新しく土庄小学校ができたが、まだまだ安心して通学できる状況ではない。保護者や関係各位の協力により、安全な通学の見守りが続けられている。より安全・安心な通学には、この歩道橋の早期完成が必要である。現在の進捗状況と今後の予定は。

建設課長 平成25年度より随時準備を進め、今年度は設計業務を行った。工事は来年度から2か年の予定で、社会資本整備総合交付金事業として進めていく。児童・生徒の通学時の安全性の確保と、地域住民の利便性の向上につながる歩道橋の完成を急ぎたい。



歩道橋の早期完成を

町長 歩道橋が完成すれば、学生のアクセスが良くなり、図書館の知名度も上がると思う。図書館横に尾崎放哉資料館もあるので、それらをリンクさせて活用したいと考えており、早期の完成を願っている。

濱野 この歩道橋の完成は、町立図書館の有効活用にもつながる。小・中学生にとって図書館が身近に感じられ、手軽に利用できることは、教育面で大きな効果がある。町立図書館の有効利用を含めて、町長に聞きたい。





岡本経治 議員

空き家対策特別措置法施行に伴う町の取り組みは

岡本 小豆島町では自治会と連携し、通学路等にある空き家を把握しているが、土庄町ではどんな対策をしているか。

住民環境課長 本年度中に空き家の数を把握し、危険空き家の調査をした

岡本 自治会等が一番把握していると思うので、しっかりと連携して、児童・生徒が通学路上で衛生的な問題、倒壊のおそれのある空き家等で危険な目に合わないよう、早めの対策を望む。

児童・生徒への防災教育は

岡本 台風・高潮等災害

対策の中で、日頃の継続した避難訓練が大切だと考えるが、自助・共助・公助等、具体的に児童・生徒たちの教育をどのように行っているか。

教育総務課長 町内の保育所・幼稚園・小中学校では定期的に避難訓練を行っている。保護者との連携、警察、消防等の関係機関に協力をお願いした避難訓練、防災アドバザー等専門家による指導・助言が今後も必要だと考える。

教育長 町内の学校等では子どもの年齢に応じた防災教育をしている。小・中学校等においては、地震・津波等の避難訓練だけでなく、火災や不審者が侵入した場合の避難訓練も行っている。

岡本 児童・生徒が「危ない」と思ったときはすぐ逃げられるような避難訓練等、しっかりと教

育を今後の課題として取り組んでほしい。

通学路の改善を

岡本 児童・生徒の通学路にはまだまだ整備不足の箇所、足元の暗い所があるが、町道、通学路についてどのように考えているのか。

教育総務課長 基本的には、通学路のコースは学校と保護者によって決まるが、例えば、迷路のまちの中にも道が狭くて薄暗い箇所がある。今年6月に町、学校、県、警察と共同で通学路点検を実施した。問題のある箇所は、学校と協議の上で道路管理者や地元自治会にも協力をお願いしていきたい。

建設課長 町は自治会に對し、LED街灯を設置する補助をしており、少しずつ暗い箇所の解消がされている。児童・生徒の通学時の安全確保は大変重要な課題であり、今後も、自治会とも協議しながら安全・安心なまち

づくりを推進していきたい。

岡本 提案だが、暗くなると点灯・点滅する約10cm角の集光型の点灯器を何mかおきに設置すれば足元が明るくなり、児童・生徒、近隣の方々の道標になるのではないか。予算を計上し、設置してはどうか。

建設課長 安全面の対策として、来年度以降予算措置を検討していきたい。

岡本 一日も早く、安全で安心して通れる通学路の整備を目指してほしい。



安全な通学路の整備を

県道屋形崎小江洲崎線道路改良工事の推進を

濱野 県道拡幅工事が進んでいるが、計画の遅れがあり、現在の工事範囲以外では、具体的な話がない。小豆島中央病院と新設高校が、池田・蒲生に建設されており、現在より遠くなるが、道路の拡幅等によって時間口スは解消される。特に救急の場合は、1分1秒が大切で、時間短縮ができれば、来年4月に開院する小豆島中央病院も生かされる。

また、おんばた会館前の交差点は、通学時に危険と感じる。県道拡幅工事の進捗状況と今後の計画、交差点改良や信号機の設定等について聞きたい。

建設課長 県道洲崎工区の大谷からおんばた会館までの延長約1.1kmの区間で歩道を整備している。現在までに約500mの区間の整備が完了し、未整備区間の用地交渉を進めている。

また、おんばた会館から赤穂屋交差点まで約400mの区間の道路整備については、他工区の進捗状況を踏まえ、今後、整備計画を検討していきたい。

交差点改良や信号機の設置はまだ具体的に考えていないが、県、警察や関係機関等と協議をし、事業を推進していきたい。

濱野 拡幅工事の一部の現状は、話は進むが、数年前で県の担当者が変わり、また話が一から始まると聞いている。

インフラ整備をするには、県と町が一体となり、今以上に職員が関係を持ち、引き継ぎなどにも意見ができればと思うが。

町長 県の事業とはいえ、地元自治体関わっている。用地交渉も含め、いろいろなところに町を挙げて協力する体制が必要であると考えている。早期の拡幅工事に協力していきたい。



福本耕太 議員

**住宅リフォーム助成制度の来年度実施は**

福本 小豆島町では、来年度から住宅リフォーム助成制度を実施する。2町同時にすれば、経済的波及効果が大きくなる。来年度の同時実施を求め

建設課長 来年度は大型工事も多く、建設業関係の仕事はあると思われる。また、再来年は消費税が上がるので、来年度は駆け込み需要が見込まれる。消費税が上がった後は、業界が冷え込むので効果を考えると、来年ではなく、消費税増税後に実施した方が、効果的と考える。

福本 駆け込み需要が来年度ならば、むしろ来年度に実施するべきだ。住民

の側（需要者側）に立てば、消費税が上がる前にリフォームをしたい。その際、制度が利用できるかどうかは決断を左右する要因の一つになる。需要があつてこそその供給であり、需要が喚起されてこそその供給拡大だ。来年度の実施こそ効果的だ。



住宅リフォーム助成制度の実施を

**プレミアム商品券の販売は町民重視で**

福本 町は、町民の税金で運営する商品券の販売対象者を、町民に限定せず、誰でも購入可能とした。その結果、多くの住民が購入できない事態が起きた。住民の権利の平等性に対し、どういう認識を持っているのか。また、なぜこんなことをしたのか。

商工観光課長 購入を希望する住民の皆さまに広く恩恵が行き渡らなかつたことに対しては、率直に反省する。以前に商品券を販売した際、完売までに時間がかかり、事前申し込みもうまくいかなかったたので、今回の方法で実施した。有効期限の問題もあり、早めの完売を目指したのは事実である。

**「安保健案」アンケートに対する町長回答の根拠を問う**

福本 三枝町長は、7月15日の朝日新聞に掲載された安保健連法案についてのアンケートで①法案に賛成②集団的自衛権の行使を認めるべき③法案は違憲ではない④今国会で法案を成立すべきと積極的に支持を表明しているが、その根拠はどこにあるのか。

町長 新聞社からは個人の意見を聞かれたと認識している。個人として賛成したので、答弁は控える。

福本 では、新聞社に抗議をしたのか。

町長 していない。

福本 ならば町長として発言していることを認めたいことになるではないか。新聞社の責任にするな。まず、安保健法や集団的自衛権が「合憲だ」と言う根拠を示せ。憲法条文のどこに合致しているのか説明せよ。

町長 個人的に賛成したので答弁は控える。

福本 憲法で、公務員である町長には憲法を擁護する義務が課せられている。町長職にありながら憲法を蹂躪する発言をしている以上、「個人的」は許されない。説明責任を果たせ。

町長 答弁は控える。

福本 説明できないことなら始めから言うな。答弁できないなら辞職するか、発言を撤回せよ。



川本貴也 議員

**瀬戸内国際芸術祭2016の進捗状況は**

川本 滞在型観光の施策、また、他市町等との連携による観光客の誘致法は。

誘客を左右する。何らかの目玉があれば、より一層波及効果が出る。次回開催でコシノジュンコ氏の作品を土庄港に設置する計画があるのか。それは実行委員会を通じてか。

町長 実行委員会に話しているが、町からコシノ氏にお願いしている。

川本 実行委員会が芸術祭のパネルフレットに掲載しない場合は、町単独でも必ず作品展示を実施する決意はあるか。

町長 前向きに検討していると思う。

**小豆島中央病院の開院に向けての取り組みは**

川本 土庄中央病院に入院している患者の小豆島中央病院への転院方法と転院時期は決定したか。

福祉課長 患者の移送は、救急車を持つ専門の業者に委託する予定である。転院時期は、より最善の策を検討している。

川本 芸術祭において作品数・展示場所が





岡野能之 議員

## 町による創業支援の取り組み

岡野 人口減少に伴い、本町では企業の廃業が進み、商工事業者数は、平成13年の1162件から平成24年には869件となっている。それに伴い、経済が縮小し、税収の減少の一つの原因となっている。

そこで、産業競争力強化法のガイドラインに沿って創業支援事業計画を申請し、認定市区町村として、創業を支援する必要があると思われる。

町における、商工事業者に対する支援、創業支援の今後の取り組みは。

商工観光課長 産業競争力強化法に基づく創業支

援計画は、町が商工会、金融機関等の創業支援事業者と連携し、創業支援計画を国に申請し認定されるものである。本町においても、県の助言を得ながら、関係機関と連携し、進めていく。

現状では、町内に工場等を設置し、雇用を拡大した企業に助成を行う企業誘致助成事業、商工会など商工業の振興に寄与する団体に補助金を交付する事業等を実施している。

岡野 他自治体では、官民共同による創業支援の取り組みを行っているところもある。土庄町においては、官民連携の面では、どのようなことをしているのか。

商工観光課長 具体的に官民連携して創業支援等に対する取り組みは行っていない。

岡野 今後、産業競争力強化法の認定を受けられるよう、申請をしていたきたい。

## 障害者グループホームの整備

岡野 土庄町の知的障害者数は、療育手帳所持者が平成23年3月末で203人であり、そのうち、18歳以上の方が174人となっている。

知的障害者の場合、自立して生活ができる方が少なく、世話をする人がいなくなると、島のグループホームに移らなければならぬ方が増えていくことが予想される。

知的障害者の保護者からも早くグループホームをつくってほしいとの声が上がっている。町内にグループホームを設立することを考えてみてはどうか。

福祉課長 知的障害者対応グループホームが昨年7月小豆島町で開設されており、定員に対して満室である。町としては、障害者の生活の場を確保するため、平成27、29年度の第4期障害福祉計画において、グループホームの整備を見込んでい

る。現在は、民設民営で、既存施設の活用、小学校等の跡地利用等を検討している。

岡野 官設民営ではできないのか。

福祉課長 官設民営では国庫補助金の対象にならないが、民設民営であれば対象になる。それらを考慮し、事業者と協議をしている。

岡野 平成29年度末まで時間がないが、事業者の選定や設置場所の協議はどの程度進んでいるのか。

福祉課長 具体的な協議はこれから進めていく。



町内にグループホームの設立を

川本 土庄中央病院に勤務する看護師が小豆島中央病院へ移る割合とその待遇は。

土庄中央病院事務長 定年・早期退職者を除き、ほぼ全員が移る意向を示している。  
医師を除く職員の給料は、現給を保証する。

川本 職員の雇用は確保できるのか。また、非正規職員の雇用はどうなるのか。

土庄中央病院事務長 看護職が不足しており、小豆島中央病院企業団で新規職員を募集している。

福祉課長 非正規職員についても、希望する職員は全員雇用する。現在、勤務条件を提示する準備を進めている。

川本 小豆島中央病院の医師確保は。

福祉課長 佐藤企業長が両町長と協力し、医師確保に取り組んでいる。

町長 地元出身の医師2人に交渉している。また、岡山大学第2内科へお願いしている。

川本 医師が確保できないければ、小豆島中央病院は赤字になり、両町の財政負担になる。来年度町負担の概算はどの程度と考えているか。

町長 現時点で概算を出すのは難しい。小豆島中央病院の赤字額は7億円程度と聞いている。



建設中の小豆島中央病院

まちの  
元気印

## 小豆島クリエイティブ



左から長田さん、東口さん、代表の島さん、大林さん、土塔さん

今回は、小豆島女子へんろを中心に活動している「小豆島クリエイティブ」の皆さんにご登壇いただきます。メンバーの皆さんにお話をうかがいました。

**Q** 活動を始めた時期ときっかけを教えてください。メンバーは何人ですか。

**A** しがらみにとらわれず、小豆島で何かもつと楽しいこと、面白いことをしたいと思ったのがきっかけで、平成22年12月に結成しました。

当初は3、4人でスタートして、現在は8人で活動しています。

**Q** 主になどのような活動をされていますか。

**A** 活動を通じて、島民の交流になるようなことがしたい。その中でボードゲームをしながら参加者同士がコミュニケーションをとる「楽宴」を3回実施しました。

現在の主な活動は、「小豆島女子へんろ」というイベントです。小豆島の遍路文化に着目し、遍路に馴染みのない若い女性にもっと知ってもらいたいという想いで始めました。

**Q** 女子へんろ参加者は島外の方が多いいですか。

**A** 島外と島内半々です。リピーターの方も多く、すぐに定員いっぱいになります。



小豆島女子へんろのようす

**Q** 活動を通して思うことは。

**A** メンバーの職種がばらばらで、それぞれ得意分野があるの

で、メンバーからも刺激を受けていい経験になっています。



ボードゲームでコミュニケーション

**Q** 活動で苦労されていることはありますか。

**A** メンバーの人数が少ないのと、それぞれいろんな団体に所属して忙しい人が多いので、ミーティングにもなかなか全員揃いません。少ないメンバーでも、自分たちのしたいことを丁寧にやっていきたいです。

**Q** 活動から5年経ってみて、小豆島で何か楽しいことや面白いことが増えてきたという手応えはありますか。

**A** 小豆島での人脈が広がって、移住者なども含め面白い人が増えていると感じています。小豆島女子へんろが認知されて、目玉イベントになったので、それに続くイベントをつくっていききたいですね。

**Q** 今後はどのようなことに力を入れていきたいですか。

**A** 小豆島の魅力を映像で紹介するチャンネルをつくりたいです。

**A** 「小豆島クリエイティブに言えば何かできそう」というような受け皿になっていければと思います。

皆さんのお話からは、自分たちが小豆島でできることを楽しむ気持ちが伝わりました。小豆島の魅力を島内外に発信する小豆島クリエイティブの皆さんの今後のますますの活躍に期待しています。

小豆島クリエイティブ HP

<http://shodoshima-c.com/wp/>

## 編集後記

空は深く澄み渡り、さわやかな季節となりましたが、町民の皆様には、いかがお過ごしでしょうか。

土庄町におきましては、合併60周年を迎え、太鼓まつりや記念式典などの記念事業が行われました。

記念式典で放映された「土庄町の60年の歩み」を見て、現在があるのには、先人達の並々ならぬ苦労があったからこそだと感謝し、太鼓まつりでは「えいしゃしゃげ」の掛け声の下、無心になって担ぎ上げる担ぎ手、称賛する観客の方々、子どもたちを見て、改めて、土庄町に対する郷土愛の深さを感じさせていただきました。

議会だよりにおきましては、町民の皆様が開かれた議会と感じていただけるよう「読みやすい」「伝わりやすい」「興味が持てる」広報紙を目指して努力いたしますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

《岡野能之 記》

議会の  
生の  
声を  
聞いて  
みませんか？

次回定例会は  
12月中旬から  
の予定です

詳しくは  
議会事務局へ ☎62-7011

議会日程は町ホームページでもお知らせしています